

書下し・存在の秘法——湯殿山は花だ。存在の花なのである

湯殿山の哲学

修験と花と存在と

山内志朗

2017年7月24日刊行予定 四六判・240頁 本体定価2500円 ISBN978-4-906791-71-2 C0010

香山リカ氏評——

「湯殿山は花だ。存在の花なのである」と、この書の最後に山内さんは記す。西洋哲学で言われる〈存在〉は一般的で抽象的だが、湯殿山の近隣で生まれ育ち、ごくあたりまえにその研究を続けてきた著者にとっての〈存在〉は、もっとやさしげではかなげで、この世界にふたりとない〈私〉をそっと成り立たせるものだ。それを山内さんは「花」と呼んだ。



湯殿山とスコラ哲学の上に、そしてそのあわいにたゆたう〈私〉の上にも、途切れることなく花がふりつむ……。これぞ山内哲学の到達点なのではないだろうか。



聖母マリア

山内志朗（やまうち・しろう）

1957年生まれ。専攻、中世哲学。東京大学大学院博士課程単位取得。

新潟大学人文学部教授を経て、現在、慶應義塾大学文学部教授。著書に

『普遍論争——近代の源流としての』（哲学書房、1992）、『天使の記号学』

（岩波書店、2001）、『笑いと哲学の微妙な関係——25のコメディと古典

朗読つき哲学饗宴』（哲学書房、2005）、『〈冗長さ〉が大切です』（岩波書

店、2007）、『存在の一義性を求めて——ドゥンス・スコトゥスと13世紀の

〈知〉の革命』（岩波書店、2011）、『感じるスコラ哲学 存在と神を味わった

中世』（慶應義塾大学出版会、2016）ほかがある。

| | | | | | | | | | |
|--------|---------|--------|-------------|-------|---------|-------|-------|-------|----|
| 終章 | 第七章 | 第六章 | 第五章 | 第四章 | 第三章 | 第二章 | 第一章 | はじめに | 目次 |
| スコラ哲学へ | 湯殿山と仙人沢 | 湯殿山への道 | 水と川と山からなる世界 | 自然と哲学 | 本道寺という村 | 花の存在論 | 湯殿山の泉 | 山の彼方へ | |

ぷねうま舎 〒162-0805 東京都新宿区矢来町122 第二矢来ビル3F Tel.03-5228-5842

締め切り 7月12日 Fax.03-5228-5843

山内志朗

湯殿山の哲学

修験と花と存在と

四六判・上製240頁 本体定価2500円 ISBN978-4-906791-71-2 C0010

貴店印

新刊委託

冊

ぷねうま舎